

事例のまとめ

事例の考察から分かったこと

- ・夢中になって遊ぶ中でも幼児自身が本来もっている「学びに向かう力」は発揮されているが、教師の意図的な環境や援助により幼児が夢中になって遊びこんでいく中で更に発揮され、「学びに向かう力」が育まれる、または育まれる経験につながっていくことが分かった。また、幼児自身の言動を意識化することで、さらに、次の経験につながっていくことが分かった。
- ・遊びの中で発揮される力や育まれる力は一つではなく、それらの力が発揮されながら育まれていることが分かった。
- ・夢中になって遊びこむためには、安心感や安定感が必要不可欠であり、特に3歳児では教師がそばにいることや見守られていること、受け止められることで安心して主体的に遊ぶ姿につながっている。4歳児頃からは教師だけでなく、友達の存在や共感も安心できる環境の一つとなっていることが分かった。
- ・『興味や関心をもって関わる力』を発揮しながら遊びが始まることが多く、『人とつながる力』を発揮して周囲に自ら思いを出したり、新しい気付きを得たりし、更に『興味や関心をもって関わる力』が育まれたり、『粘り強く取り組む力』につながったりしている。幼児自身がもっている力を意識して、より発揮されるよう、また、更に育まれるような援助を行っていくことが必要である。
- ・特に『興味や関心をもって関わる力』は言葉による援助ではなく、意図的な環境や、教師の見守り方などが重要なのではないかと考えられる。環境を通して行う幼児教育が幼児の学びにつながっていくことを再確認した。

事例から見る 環境の構成

- ・じっくりと関わって遊べる場や時間の保障
(拠点・居場所・安心できる・遊びに没頭できる)
- ・実態と目的に合った教材の提示
(それぞれの見方や考え方で関われる・自分で再現しやすい
繰り返し考えたり、試したりできる・イメージが共有されやすい)
- ・遊び出しのきっかけとなる環境づくり
(興味を引きやすい場や物・取り出しやすい場や物)
- ・教師や友達の存在
(喜びや驚きを伝えたい、イメージや楽しさを共有したい)
- ・教師や友達からの共感が伝わる雰囲気
- ・共通の先行体験
- ・友達同士で互いの様子やイメージに気付きやすい場の構成
- ・遊びの広がりにつながるような場の再構成

事例から見る 教師の援助

- ・安心感につながる教師の見守り方
(物理的な距離・眼差し)
- ・幼児の思いや考え、イメージ、発見の受け止めや共感、つぶやき、意識化
- ・偶然との出会いの保障
(タイミングを逃さない・注目させる言葉掛け)
- ・気付いたり、考えたりするきっかけづくり
(うまくいかない状況や物の特性に気付く場面などに注目させる言葉掛け)
- ・思いや考えを十分に出せる雰囲気
(信頼関係・声の大きさや声色・肯定的な声掛け)
- ・個に応じた関わり方や援助
(目的やハードルの設定・技能や楽しんでいることに合わせた実現方法や素材の提示)
- ・一緒に遊ぶ友達を互いに意識させる言葉掛け
- ・イメージの共有を手助けする関わり方
(共通の体験やイメージの機会を設定・聞き取ったり読み取ったりしたイメージをつぶやいたり形にしたりして分かりやすくする)